バイオ品を開発

機能性コート剤

星光PMC 紙包装を防湿化

星光PMCは食品用紙製パッケージ向け機能性コート剤のバイオグレードを開発した。需要家となるコンバーターや製紙会社に対し、近くサンプルワークを始める。

開発したのはロジン（松脂）を主剤としたエマルション「T－EF102」で、機能性コート剤のうち防湿コート剤に該当する。生分解性は85～99%、バイオマス度は85～95%。米食品医薬品局（FDA）のリストにも収載されるなど高い安全性を備える。

紙に塗工して乾燥させると防湿性を発現する。防湿性を示す透湿度は温度40度C、湿度90%の環境下の試験で24時間当たり約70㌘。採用獲得の確度を高めるには防湿性能の一層の向上が必要で、塗工プロセスの改良などを通じて対応を進める。ハイバリア領域に相当する10㌘以下を達成できれば幅広い紙製パッケージへの利用が可能になる。

同社はポリエチレンラミネート代替をキーワードに、紙製パッケージに耐油性や耐水性、防湿性などを付与する各種機能性コート剤の展開を強化している。機能性コート剤を塗工した紙製パッケージは使用後のリサイクルが容易で、パッケージ溶解後のスラリーは製紙機械の一種パルパーにそのまま投入できる。ポリエチレンラミネートの場合にはスラリー中のフィルムくずがリサイクルの妨げになり、分別作業などの手間が必要となるケースがある。

従来、各種機能性コート剤のラインアップはアクリレートを中心とした石油由来品だったが、脱プラをはじめ石油由来プラスチックを巡るリスクに備えてバイオ品を投入した。

CPL 中国生産10%増

昨年360万㌧超え最高更新

ナイロン6原料カプロラクタム（CPL）の中国の20年生産量は前年比10%増の360万9千㌧と過去最高を更新した。ナイロン6の世界需要の約3分の2を占める中国は新型コロナウイルス禍からいち早く脱し、下期以降、需要が好調に推移したためだ。

中国国内のCPLの年産能力は20年末時点で446万㌧と推定され、設備稼働率は81%と3㌽ほど上昇したとみられる。20年下期以降の経済活動の復調でCPLから川下のナイロン6チップ、衣料用繊維、包装用フィルム、射出成形用樹脂などに至るサプライチェーン全体で需要が増加し、CPLの生産を押し上げた。

中国のCPL輸入量は32%増の26万7800㌧で、内需に占める国産品の比率は93%と1㌽下落した。ナイロン6チップの生産量は12%増の387万6800㌧と推定され、これに輸入量29万3千㌧（13%減）を加え輸出量12万2800㌧（7%増）を除いた需要量は10%増の404万6400㌧と初めて400万㌧を超えた。世界需要は前年並みの約600万㌧にとどまった模様で、中国がひとり気をはいた。

月 エチレン生産4.4%増

1 11ヵ月ぶりプラス 稼働率99.4%

石油化学工業協会がまとめた主要石油化学製品の1月生産実績によるとエチレンは前年同月比4・4%増の54万1400㌧と11カ月ぶりに前年実績を上回った。

エチレンプラントの稼働率は99・4%と、好不調の目安とされる90%を8カ月連続で上回り、前年同月に比べ8・4㌽上昇（前月比では2・4㌽上昇）した。稼働率の99%超えは4年ぶり。エチレンプラントの定期修理は当月、前年同月ともになかった。エチレンを除く対象17品目の生産は、主に稼働率要因で9品目が前年超えとなった。

汎用樹脂国内出荷 HDPE除き増加

石油化学工業協会がまとめた汎用4樹脂（LDPE、HDPE、PP、PS）の1月出荷実績によると、国内はHDPEを除く3樹脂が前年同月比プラスとなった。コロナ禍による都市部での緊急事態宣言の再発令で消費マインドに低下が見られたが、国内製造業の生産活動が持ち直し汎用樹脂の需要を押し上げた。

国内出荷の前年超えはLDPEが3カ月ぶり、PPが2カ月連続、PSが2カ月ぶり。HDPEは微減で3カ月連続の前年割れとなった。例年1月の国内出荷は年始休暇に伴うユーザー側の稼働低下で12月から大きく減少するが、今年はLDPEが12月並み、他の3樹脂も小幅の減少だった。

生産は稼働率要因で4樹脂とも前年超えとなった。月末の在庫率（季節調整済み）はLDPEが2・9カ月（12月末2・9カ月）、HDPEが3・0カ月（2・9カ月）、PPが2・6カ月（2・7カ月）、PSが1・7カ月（1・6カ月）で、いずれも適正水準。

AN輸出5割超増加

石化品通関 PE輸入減少続く

財務省貿易統計に基づく主要石油化学製品の1月通関実績によると、輸出はANが前年同月比5割以上増え4カ月ぶりのプラスとなった。台湾やマレーシア向けが伸び、主力の中国向けの減少を補った。ベンゼンとPXは中国での大型設備の稼働に伴う余剰感などを反映し落ち込みが続く。

汎用樹脂はPVC以外軒並みプラスで、LDPEは中国向けが牽引し7割近く増加した。唯一マイナスのPVCは0・7%減とほぼ前年並み。インフラ資材の旺盛な現地需要を背景に2大出荷先のインドと中国向けが引き続き堅調に推移した。

輸入はエチレンやプタジエン、EGなど基礎原料系が軒並み減少した。ナフサクラッカーの定修一巡などもあり不足分を海外から調達する必要性が薄れたようだ。メタノールはサウジ品の減少を反映し2カ月連続のマイナス、酢酸は韓国品が大幅に落ち込み半分以下に減った。汎用樹脂も軒並み落ち込み、HDPEとLDPEはコロナ禍による包装フィルム向けをはじめ内需の回復遅れなどから7カ月連続のマイナスとなった。ナフサは輸入単価が前月から1割上昇し、昨年4月以降では初めて3万円台を付けた。輸入先首位はカタールで全体の約3割を占めた。続いて韓国、インド、UAEが多かった。

2021年1月石化品輸入実績

（単位：トン、%、円）

	1月	前月比	前年同月比	単価
ナフサ	2,112	86.8	89.7	31,800
エチレン	2,897	61.7	15.5	122
ブタジエン	2,004	100.8	82.6	138
EDC	11,099	123.6	68.0	52
メタノール	146,543	152.9	95.8	33
EG	48	17.3	41.6	111
AN	1,553	－	55.4	122
ベンゼン	2,979	－	33.2	69
PG	2,424	99.5	97.6	146
酢酸	4,614	59.7	44.6	59
酢酸エチル	8,068	180.1	73.9	104
アクリル酸エステル	3,452	125.5	103.6	180
メタクリル酸エステル	829	94.6	123.1	307
DOP	16	50.0	2.5	143
DMT	1,453	70.2	90.0	95
HDPE	14,091	113.9	92.9	116
LDPE	3,712	111.8	71.8	180
PP	18,889	113.6	56.3	141
PVC	260	56.7	50.4	174
PS	86	58.0	8.5	302
FS	527	71.4	56.5	160
ABS	3,320	122.9	83.0	189
アクリル重合体	5,694	123.8	125.4	299
POM	4,029	123.5	101.4	149
PC	6,661	114.7	99.0	263
PA	11,105	123.7	86.7	281
SBR	5,529	88.5	97.0	201
IIR	428	291.5	181.4	241

※ナフサの単位は千kℓ。PVCは他の物質と混合していないもの。PPはプロピレンの共重合体含む。

2021年1月石化品輸出実績

（単位：トン、%、円）

	1月	前月比	前年同月比	単価
エチレン	47,903	75.7	105.6	88
プロピレン	33,950	52.8	46.3	91
ベンゼン	23,404	53.0	47.5	60
PX	164,557	106.2	64.5	49
SM	43,563	78.2	79.8	92
VCM	101,338	115.4	136.2	98
EG	14,437	58.1	82.2	48
フェノール	2	0.2	0.0	1,521
アセトン	960	50.7	18.3	97
MEK	12,613	107.7	85.2	98
MMA	13,056	89.0	92.5	220
フタル酸	2,866	93.7	81.3	94
DOP	499	186.3	153.7	128
アクリル酸エステル	4,634	100.3	205.9	312
AN	11,293	297.9	153.3	165
PTA	3,027	100.1	117.9	42
TDI	4,286	118.3	74.9	209
MDI	6,197	91.4	88.3	293
酢酸	1,023	100.0	22.4	50
ポバール	7,188	89.5	136.7	274
CPL	10,012	86.7	156.6	133
LDPE	20,167	66.2	168.5	121
HDPE	14,562	89.0	140.5	126
EVA	10,824	84.9	164.0	190
PP	37,622	74.3	135.1	126
PS	9,524	63.4	116.7	129
ABS	9,031	91.7	160.1	210
PVC	55,011	94.9	99.3	123
POM	4,848	89.2	137.9	287
PC	14,809	85.6	118.0	478
PA	7,858	107.1	163.4	466
SBR	15,141	103.3	109.7	216
BR	12,282	102.7	142.4	226
CR	7,606	90.8	131.7	432

※PVCは他の物質と混合してないもの。PPはプロピレンの共重合体含む。

1月の石化製品生産実績

（単位：1,000㌧、%）

	1月	前月比	前年同月比
エチレン	541.4	1	4
LDPE	128.1	24	3
HDPE	66.7	▲10	0
PP	233.2	5	9
PS	57.2	▲1	4
SM	173.6	▲6	5
PVC	140.0	4	▲10
VCM	258.9	4	4
MMA	42.7	6	20
EO	61.6	▲18	▲22
EG	38.0	▲33	▲36
アセトアルデヒド	10.5	94	16
AN	39.7	5	6
SBR	36.1	12	▲11
BR	23.4	▲9	▲14
ベンゼン	307.3	3	▲6
トルエン	116.1	▲3	▲5
キシレン	437.7	3	▲18

1月の汎用4樹脂の出荷実績

（単位：1,000㌧、%）

		生産	出荷 国内	出荷 輸出	出荷 計	在庫
LDPE	数量	128.1	101.6	13.0	114.6	362.2
	前月比	24	0	▲14	▲1	4
	前年同月比	3	1	96	7	▲14
HDPE	数量	66.7	55.0	8.9	63.8	212.8
	前月比	▲10	▲2	6	▲1	1
	前年同月比	0	▲0	21	2	▲14
PP	数量	233.2	190.9	9.6	200.5	591.4
	前月比	5	▲1	▲6	▲1	7
	前年同月比	9	8	5	8	▲7
PS	数量	57.2	48.7	3.6	52.4	100.8
	前月比	▲1	▲1	▲20	▲2	5
	前年同月比	4	4	12	4	3

11ヵ月連続増

塩ビ平板出荷

日本プラスチック板協会がまとめたプラ板4品目の1月需給実績によると、出荷は硬質塩化ビニル平板が前年同月比22%増え11カ月連続のプラスとなった。内訳は一般用が新型コロナウイルス飛沫感染対策用品向け需要により67%増、輸出が中国や台湾への半導体製造装置向けが伸び15%増、工業用が2%増だった。塩ビ波板は前年並み、ポリカーボネート（PC）平板は13%減、PC波板は22%減となった。生産は塩ビ平板が37%増加し、塩ビ波板は41%増、PC平板は11%減、PC波板は47%減となった。

1月のポリカーボネート平板・波板生産出荷実績

（単位：トン）

			1月	前年比(%)
平板	生産		1,188	89
	出荷	国内	1,138	87
		輸出	1	－
		計	1,139	87
	在庫		5,918	
波板	生産		523	53
	出荷	国内	518	72
		輸出	44	－
		計	562	78
	在庫		2,595	

日本プラスチック板協会

1月の硬質塩化ビニル平板生産出荷実績

（単位：トン）

		1月	前年比(%)
生産		1,128	137
出荷	工業用	627	102
	一般用	468	167
	建材用	0	－
	輸出	47	115
	計	1,142	122
在庫		1,953	

日本プラスチック板協会

1月の硬質塩化ビニル波板生産出荷実績

（単位：トン）

		1月	前年比(%)
生産		379	141
出荷	国内	343	100
	輸出	0	－
	計	343	100
在庫		1,809	

日本プラスチック板協会

16ヵ月ぶりプラス

合繊生産1.6%増

日本化学繊維協会がまとめた1月の合成繊維生産（速報値）は前年同月比1・6%増の4万3755㌧と16カ月ぶりに前年実績を上回った。

衣料品向け合繊の需要は依然、低迷が続いており、ナイロン長繊維、アクリル短繊維、ポリエステル長繊維と同短繊維の生産が前年割れとなった。一方で、紙おむつや使い切り防護服、マスクなどに使用されるポリプロピレン長繊維と同短繊維の生産が上向いた。その他も21・4%増となった。

1月の合成繊維生産・在庫量

（単位：トン、%）

	生産 1月	生産 前年同月比	在庫 1月	在庫 前年同月比
ナイロンF	5,726	87.0	7,993	64.5
アクリルS	7,143	94.8	13,256	96.2
ポリエステルF	8,163	90.4	8,212	80.0
ポリエステルS	6,887	98.7	13,595	91.3
ポリプロピレンF	3,227	127.2	699	88.8
ポリプロピレンS	5,007	102.6	6,791	101.0
その他	12,243	121.4	12,907	98.1
合計	48,396	101.6	63,453	88.1

注）非会員企業のデータは推定値で集計
日本化学繊維協会

PS内需4%増

日本スチレン工業会がまとめたポリスチレン（PS）の1月国産品内需は、前年同月比4%増の4万8740㌧と2カ月ぶりに前年実績を上回った。

用途別はFS（フォームスチレン）が1%減となったが、包装用は2%増、電機・工業用は5%増、雑貨・産業用は16%増と好調だった。うち雑貨・産業用は3カ月連続で8千㌧台の高水準となった。原料高で価格が上昇した輸入品に比べ割安となった国産品の需要が増加したためとみられる。輸入は12月が1700㌧で、20年は2万9800㌧（19年3万7400㌧）にとどまった。

スチレンモノマー（SM）の1月内需は前年並みの11万9821㌧、輸出は9%減の4万4113㌧だった。

2021年1月受払表

（単位：トン、%）

			1月実績	前年同月比
ポリスチレン	繰越在庫		95,966	103
	生産		57,235	104
	出荷 内需	電機工業用	6,490	105
		包装用	20,052	102
		雑貨産業用	8,006	116
		FS用	14,192	99
		計	48,740	104
	出荷 輸出		3,624	112
	出荷 合計		52,364	104
	月末在庫		100,837	103
スチレンモノマー	繰越		56,656	89
	生産		173,601	105
	出荷 内需	GP、HI	55,793	98
		EPS	8,715	91
		合成ゴム	11,608	89
		不飽和ポリエステル	3,418	136
		ABS	23,860	115
		その他	16,427	95
		計	119,821	100
	出荷 輸出		44,113	91
	出荷 合計		163,934	97
	月末在庫		69,093	114

7ヵ月ぶりプラス

CPP内需

日本ポリプロピレンフィルム工業会がまとめたポリプロピレン（PP）フィルムの1月生産・出荷統計によると、内需は延伸フィルム（OPP）が前年同月比5・5%減の1万6065㌧と3カ月連続で前年実績を下回ったが、無延伸フィルム（CPP）は0・4%増の1万1595㌧と7カ月ぶりにプラスとなった。OPP、CPPとも主力の食品包装用が前年割れとなったが、CPPは保護フィルムなどの工業用が盛り上がった。

1月のOPP・CPP出荷

（単位：トン、%）

			1月	前年同月比
OPP	生産		14,521	106.8
	出荷	食品	12,571	94.0
		工業用・その他	2,357	91.1
		繊維・雑貨	1,137	109.5
	内需計		16,065	94.5
	輸出		353	198.3
	合計		16,418	95.6
	在庫		29,301	90.7
CPP	生産		11,859	100.2
	出荷	食品	9,570	97.6
		工業用	854	149.3
		繊維・雑貨・その他	1,271	100.2
	内需計		11,695	100.4
	輸出		334	85.0
	合計		12,029	99.9
	在庫		28,551	110.6

日本ポリプロピレンフィルム工業会

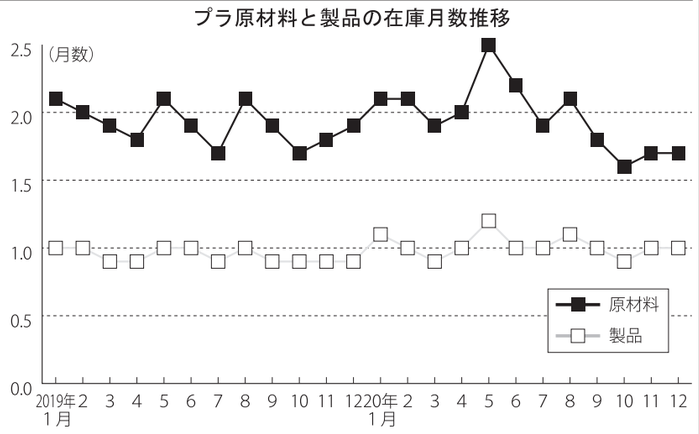
プラ原材料在庫 横ばいの1.7ヵ月

12月

日本プラスチック工業連盟のまとめによると、20年12月のプラスチック原材料の在庫月数はポリエチレン（PE）など対象24品目平均で前月比横ばいの1・7カ月だった。2カ月以下は4カ月連続となり、1年前、2年前の同じ時期に比べてもほぼ横ばいで適正水準が保たれた。主な品目は、LDPEとHDPEはともに前月から0・2カ月上昇し、それぞれ2・3カ月、2・4カ月となった。PSのGP・HIは1・4カ月、PPは1・8カ月、フェノール樹脂は0・5カ月といずれも前月比横ばい。PMMA成形材料は0・2カ月低下し1カ月、PET樹脂は1カ月上昇し6・3カ月となった。

プラスチック製品はフィルム・シートなど16品目平均で1カ月と前月比で横ばい、前年同月比で0・1カ月上昇した。主な品目のうち、包装用フィルム・シートは1・3カ月、平板は0・7カ月といずれも前月比で横ばい、波板は大幅に上昇し2・6カ月となった。機械器具部品のうち自動車部品などの輸送機械用部品は小幅上昇し0・2カ月だった。

プラ原材料と製品の在庫月数推移



化学製品値上げ

PVAを30円 デンカ

デンカはポリビニルアルコール（PVA）を1日出荷分から1キログラム30円値上げする。

無水フタル酸 川崎化成、25円以上

川崎化成工業は無水フタル酸を15日以降納入分から1キログラム25円以上値上げする。

エマルジョン 昭和電工

昭和電工はエマルジョンを15日出荷分から値上げする。上げ幅はエチレン－酢酸ビニル系が1キログラム25円、酢ビ系が20円。

包装用フィルム 東洋紡

東洋紡は包装用フィルムを22日出荷分から値上げする。上げ幅はOPP、CPP、LLDPEフィルム（厚さ20㌮換算）とPETフィルム（12㌮換算、透明蒸着品も含む）が1連（500平方㍍）300円、ナイロンフィルム（15㌮換算、透明蒸着品も含む）が600円。

PVA系繊維製品 ユニチカ、10～25%

ユニチカは衣料用PVA系繊維（ビニロン繊維）の紡績糸、織物、編物を4月1日出荷分から10～25%値上げする。

オキソ誘導品や酢酸 JNC、20円以上

JNCはオキソ誘導品や酢酸と誘導品などを4月1日出荷分から1キログラム20円以上値上げする。

Your Prime Solution Partner

「私たちがめざすのは、“プライムソリューション パートナー”。
卓越した製品、技術、サービスを安定的・持続的に提供し、
お客様から信頼されるパートナーとなるために。
これまでのポリオレフィン事業において培った深い蓄積と
解決への強い意志から生まれる最上質の提案によって、
お客様とゴールを共有し、共に発展することをめざします。」

株式会社プライムポリマー
〒105-7122
東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター TEL:03-6253-4500
FAX:03-6253-4980 http://www.primepolymer.co.jp/

PRIME POLYMER

住友化学